

# PoINT Storage Manager V5.2 と NetApp StorageGRID Webscale 10.3 の設定と動作検証 (2016/12/24)

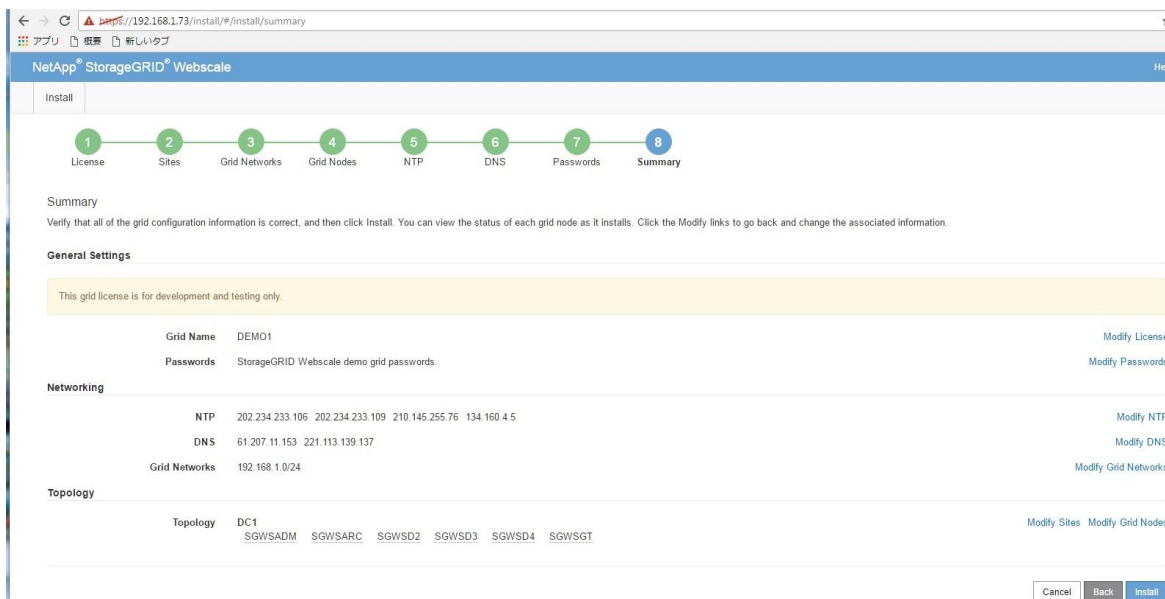
有限会社オプティカルエキスパート

NetApp の Object Storage の StorageGRID Webscale の最新版である 10.3 に関して、弊社内での動作環境の構築を行い、AWS S3 インターフェイスを使用した PoINT Storage Manager との動作検証を行いました。Webscale に関しては、昨年 6 月に 10.2 との CDMI 接続を使用した動作検証を NetApp US の協力で実施しました。今回は、弊社内に Webscale10.3 の動作環境を構築し、PoINT Storage Manager との動作検証を行い正常に動作することが確認出来ました。

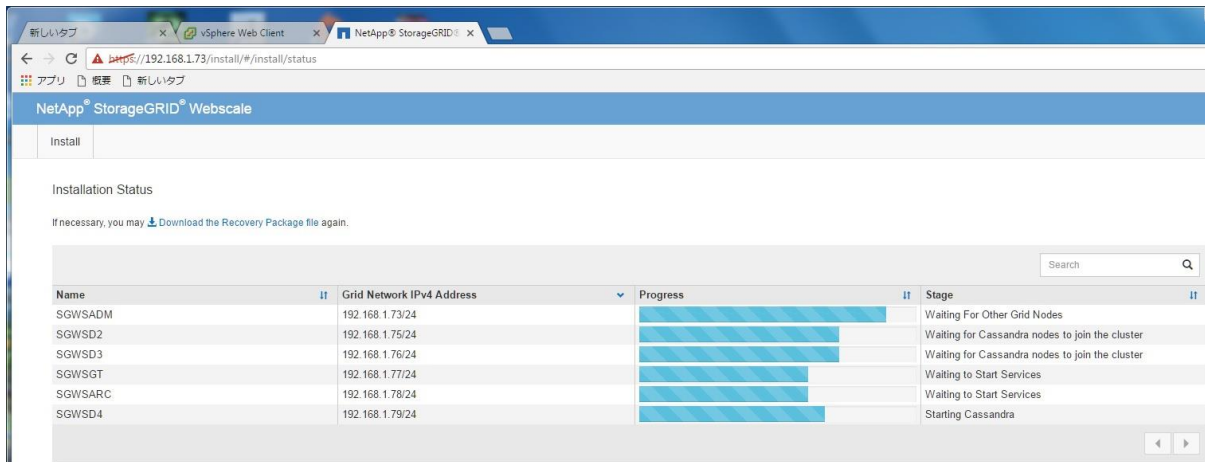
## NetApp StorageGRID Webscale 10.3 のインストールとシステム構築

インストール手順に従って、vmware ESXi に 6 個の仮想サーバーを稼働させた後に、Admin Node で稼働しているインストール用の Web ページにアクセスし、インストールを行いました。

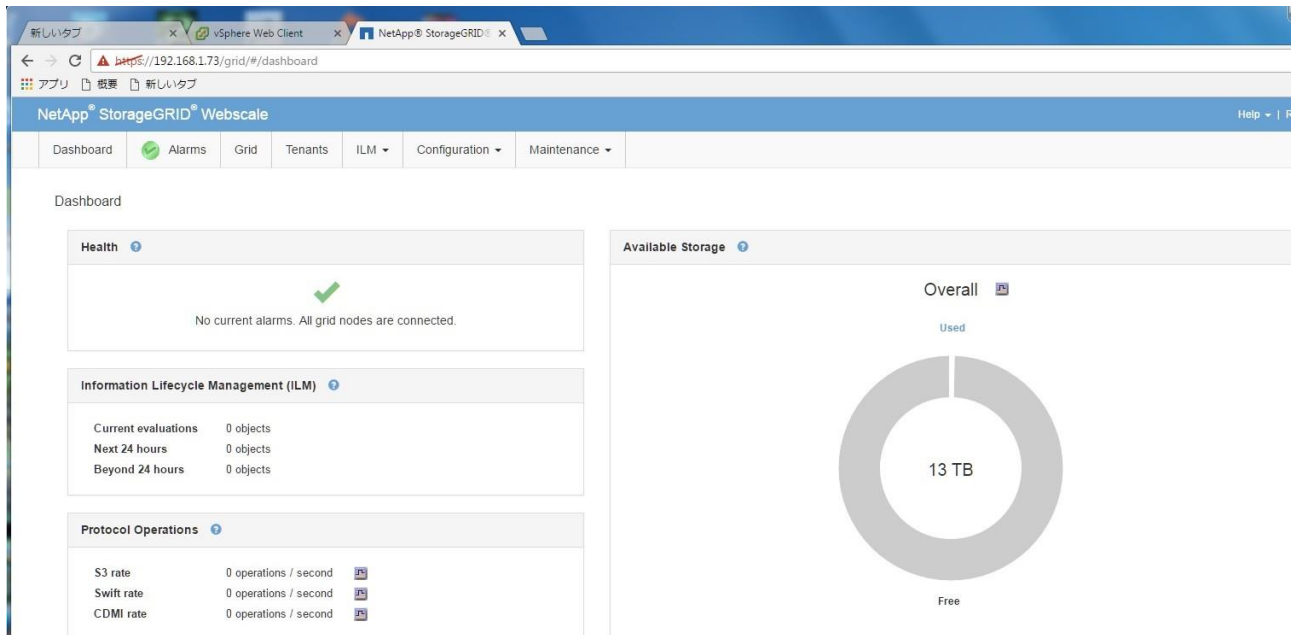
以下がインストールの設定画面です。



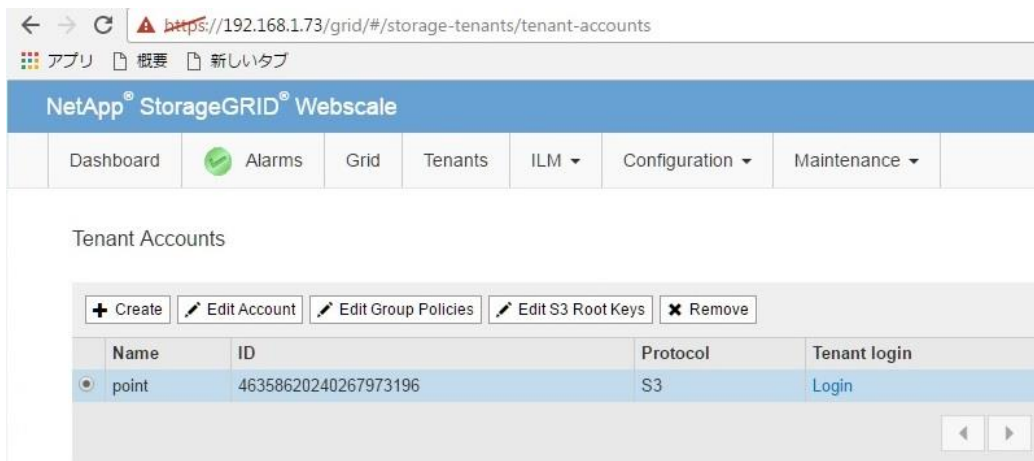
以下がインストール中のスクリーンショットです。



インストールが完了すると、管理 Web へのログイン画面が表示され、ログイン後、以下の Dashboard が表示されました。



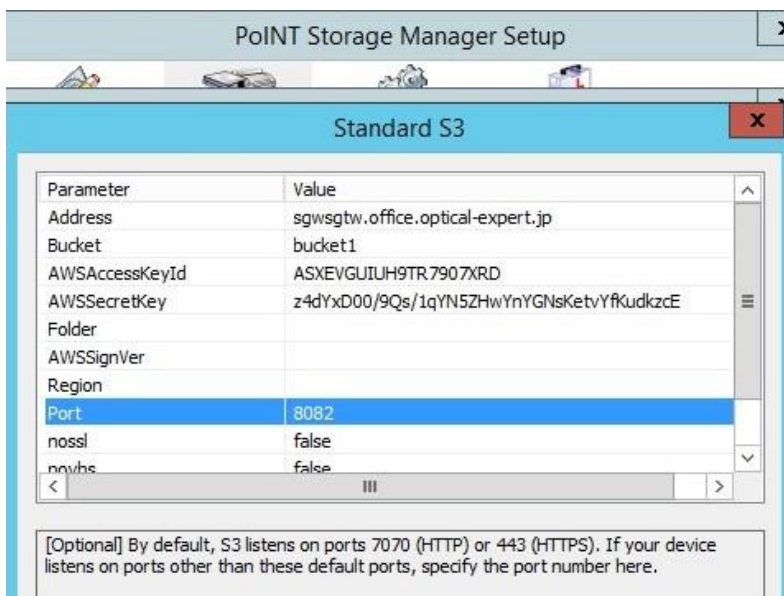
PoINT Storage Manager の接続用に、Tenant として、point のユーザー名で Tenant を作成し、接続に必要なクレデンシャルを保存します。作成すると、必要なクレデンシャル情報がファイルとしてダウンロードされます。



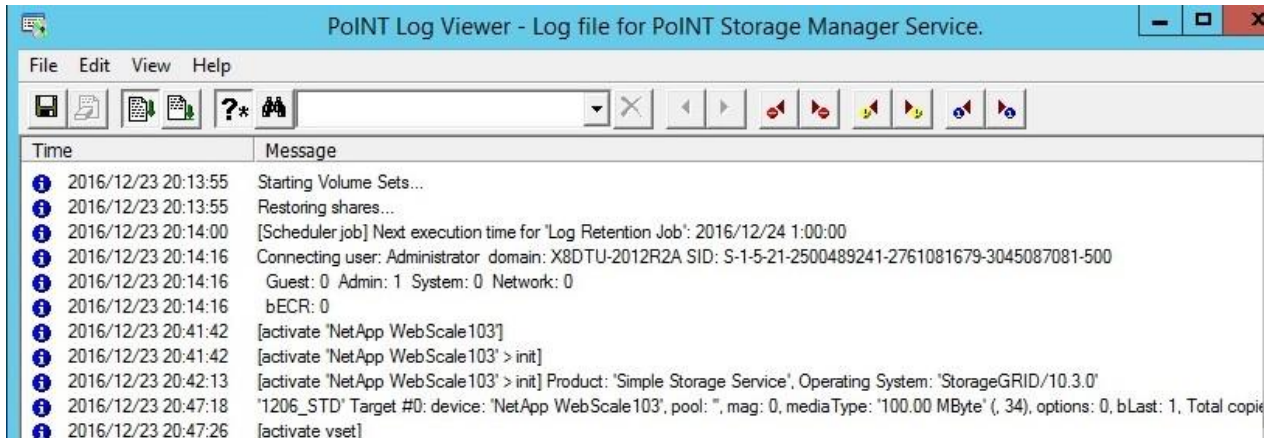
### PoINT Storage Manager からの接続設定

AWS S3 インターフェイスを使用した接続は、Webscale Gateway Node を使用するというので、サーバー名を DNS に登録し、FQDN でアクセス出来るように設定しました。

PoINT Storage Manager では、アーカイブデバイスの追加画面で、AWS S3 を選択し、以下のスクリーンショットのように必要な情報を入力します。デフォルトで ssl が有効でした。



PoINT Storage Manager が接続に成功すると以下のようなログメッセージが残ります。



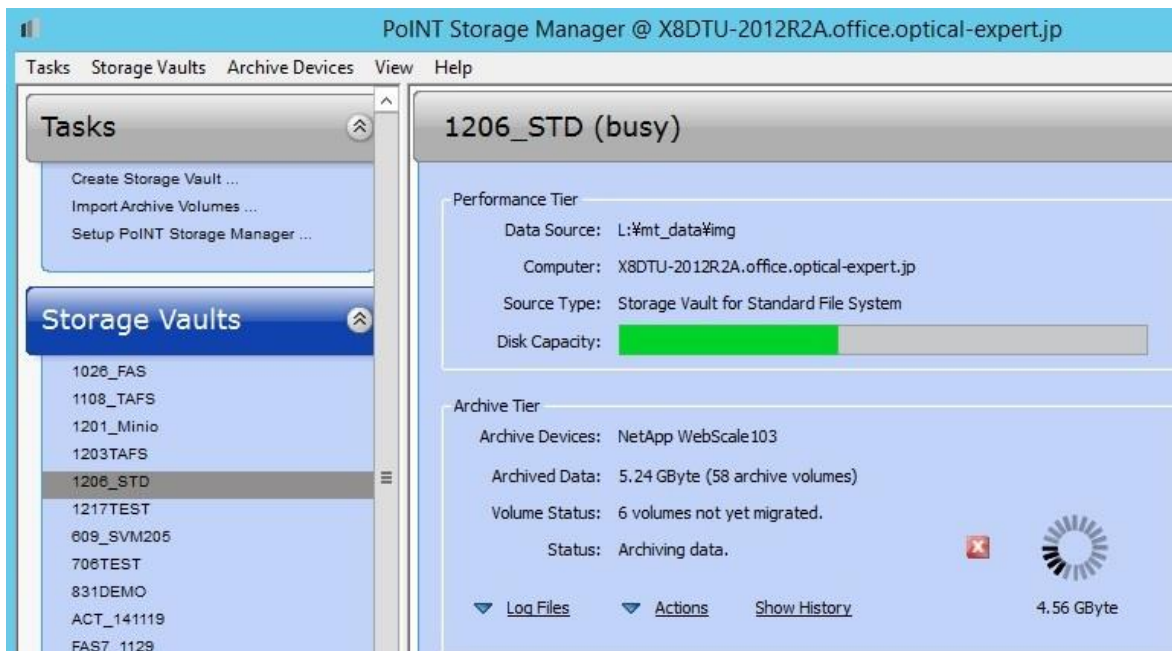
アーカイブデバイスとして以下のスクリーンショットのように Webscale10.3 が使用可能になりました。



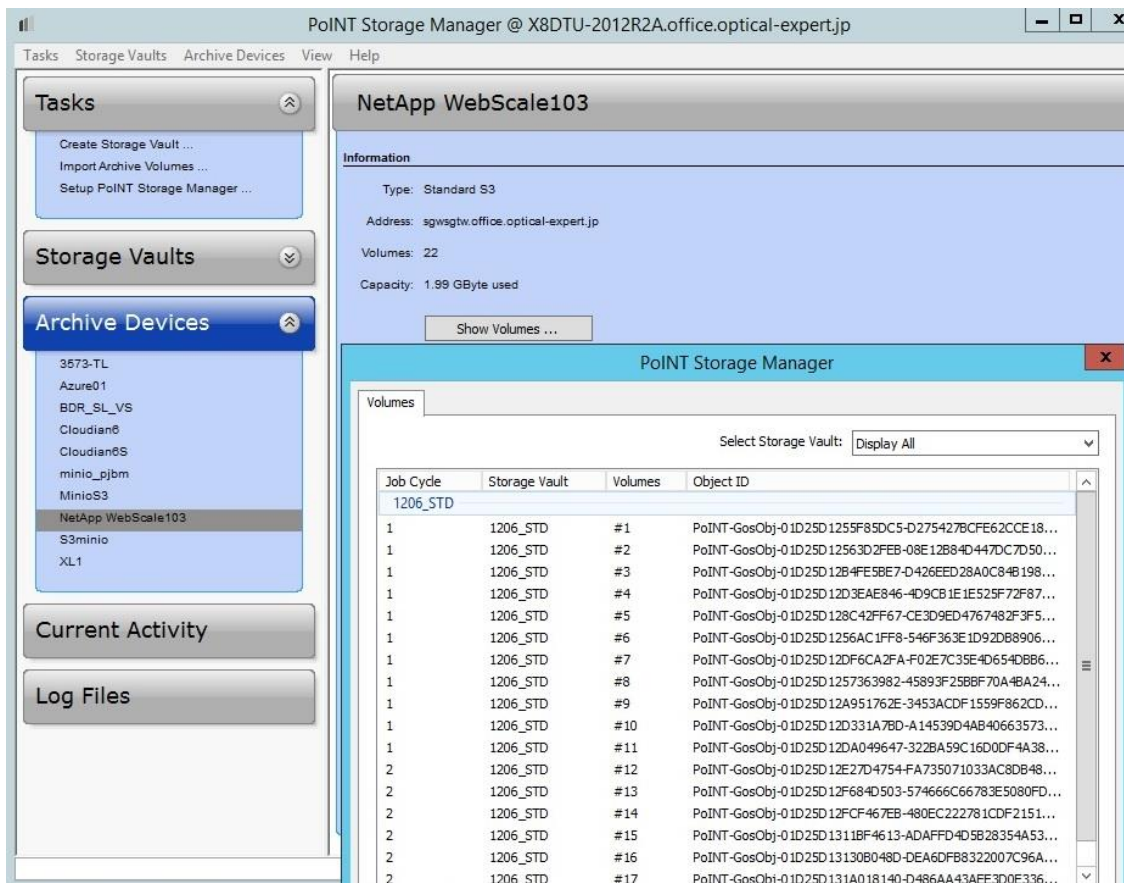
### PoINT Storage Manager からの StorageGRID Webscale10.3 へのデータアーカイブ

データアーカイブの検証としては、Windows サーバーにある 17GB ぐらいの画像ファイルを 100MB 単位のコンテナファイルにまとめて Webscale にアーカイブしました。100MB は、コンテナファイルの最小サイズです。

以下のスクリーンショットは、Webscale にデータアーカイブ中のものです。

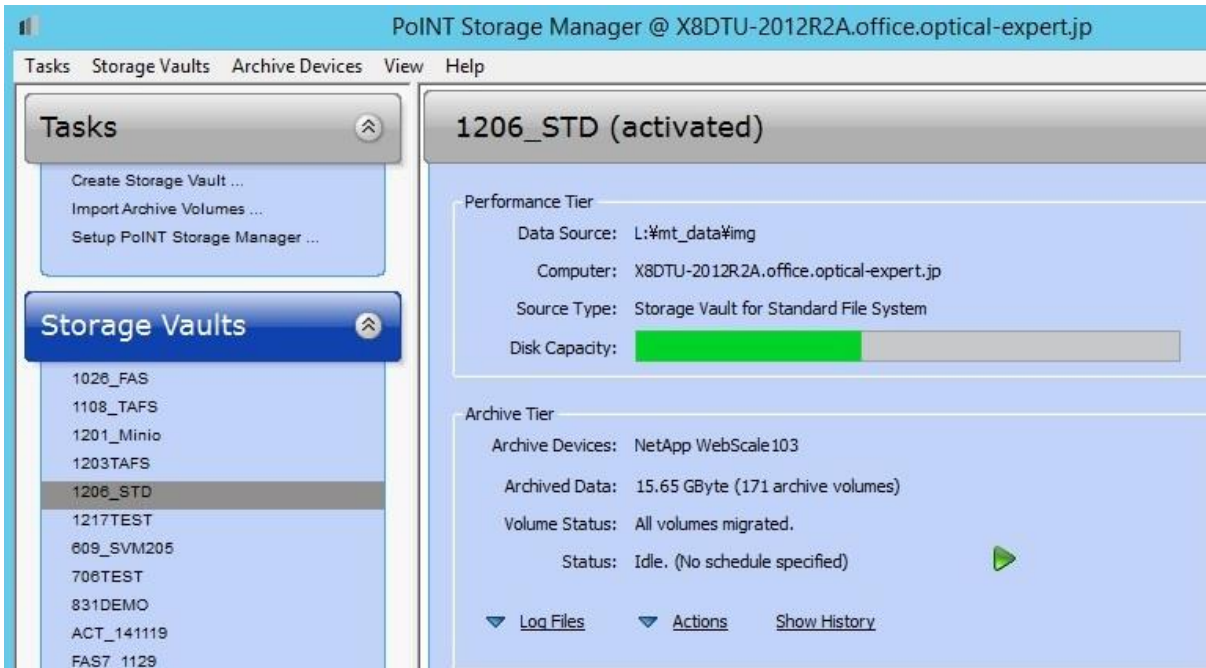


アーカイブデバイスとしての StorageGRID Webscale の画面表示は以下の通りです。

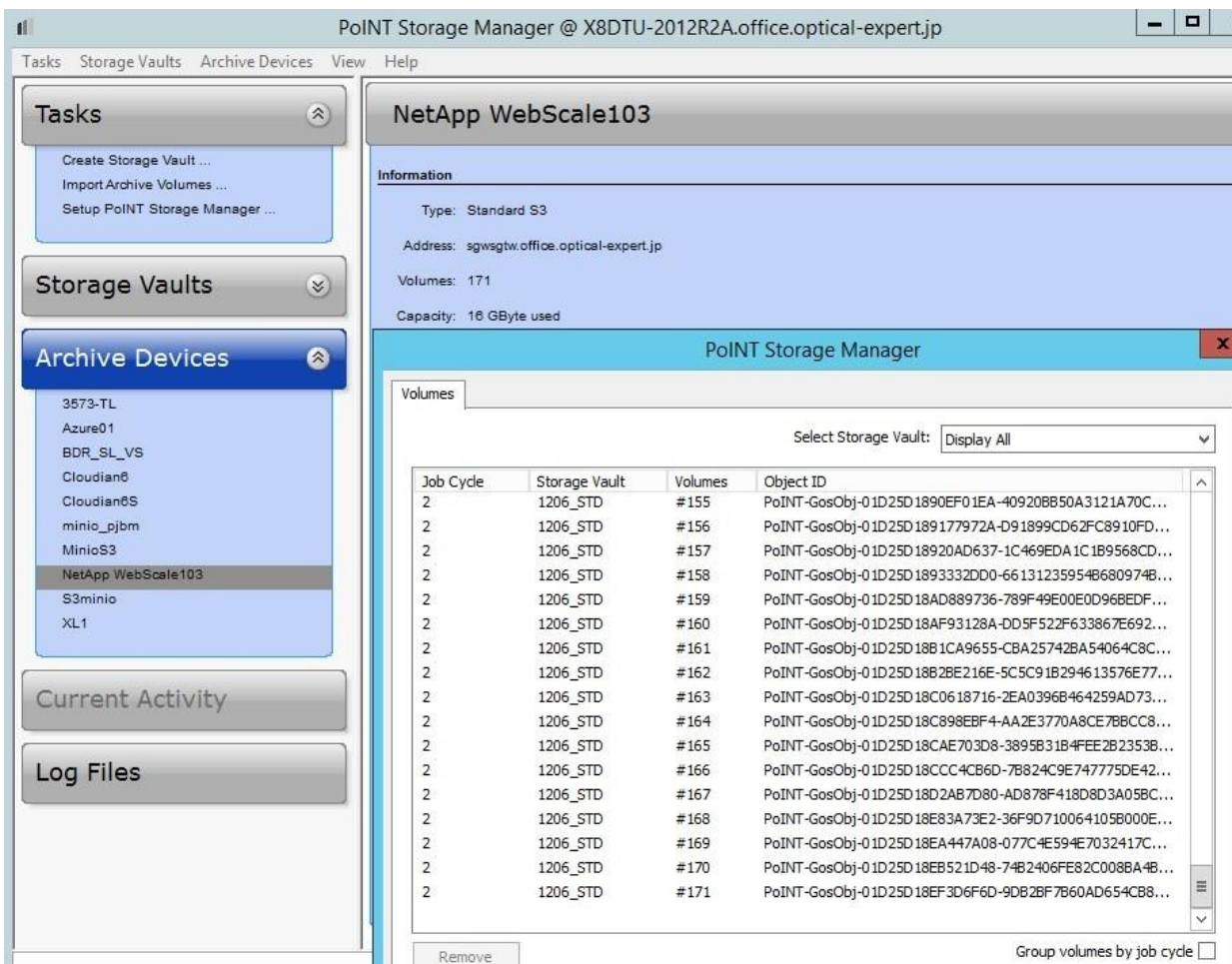


データアーカイブが完了した際のスクリーンショットは以下の通りです。



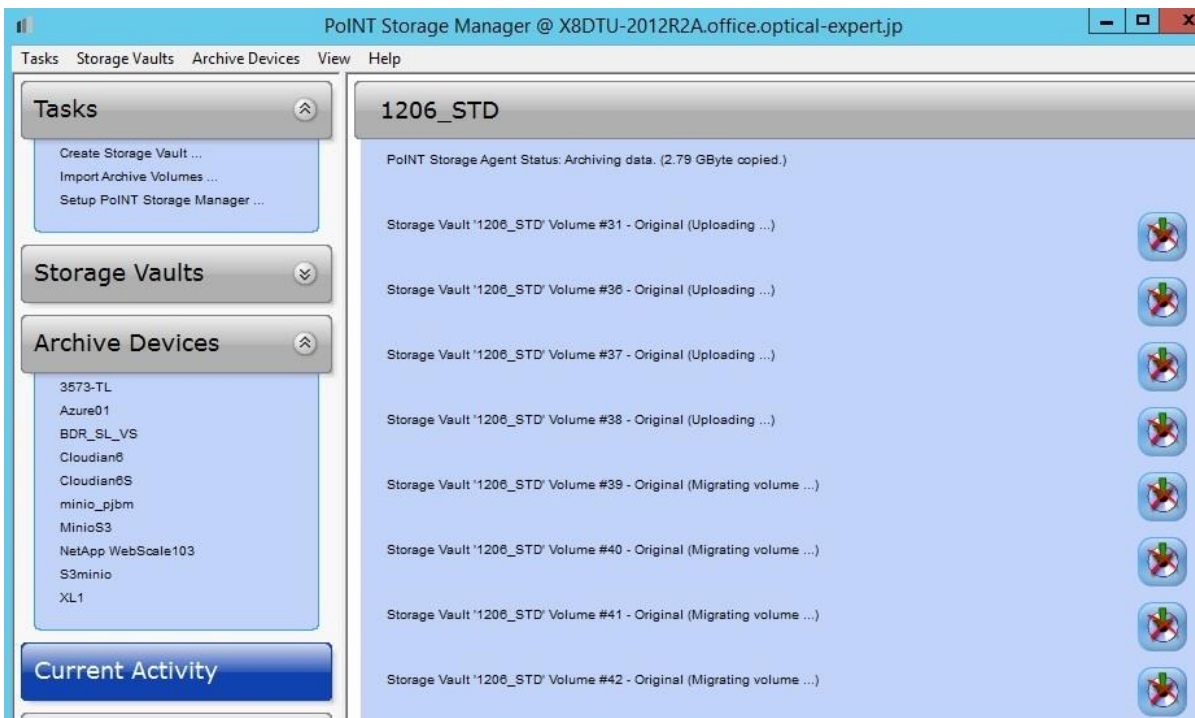


上記スクリーンショットで、171 個のボリューム(コンテナファイル)がアーカイブされた则表示されており、Webscale の画面でも 171 個のファイルが保存されています。



StorageGRID Webscale にデータアーカイブを行っている際には、以下の Current Activity 画面で、同時に 4 個のコン

テナファイルを upload しています。



StorageGRID Webscale の管理 Web でのデータアクセス状況は以下のステータス画面で把握出来ました。DC1 が弊社内の動作環境です。

